

神戸大学石川慎一郎研究室©2016

問題解決提案型レポート・プレゼンテーション用フローチャート

0. タイトル

|  |
| --- |
|  |

★短く簡潔か？　聴衆の興味を引くものになっているか？

1 Introduction

|  |
| --- |
| ・  ・ |

★いわゆる「ツカミ」の部分。論じようとするテーマへ聴衆の注意を一気に引き付ける。インパクトある画像，身近なエピソード，聴衆への問いかけなどをうまく利用する。「大きな話」で始めるのではなく「小さな話」で始めるのが鉄則。

2. Problem

|  |
| --- |
| ・  ・  ・ |

★このプレゼンで扱おうとする問題を具体的に呈示する。発表者個人にとって「問題」であるだけでなく，このテーマに関心がないであろう聴衆にとっても実は他人事でない「問題」でありうることをはっきりと伝える。問題の危険性・重大性を強調し，解決策の必要性に自然につなぐこと。必要に応じて画像やグラフなどを援用。

3. Solution

|  |
| --- |
| ・  ・  ・  ・ |

★すでに呈示した問題に対し，完璧に整合する解決策を具体的に示す。「大きな話」に逃げず，実行可能な「小さな切り口」で解決策を示す。プレゼンを聞かなくても想像できる平凡な解決策ではなく，プレゼンター独自の視点を押し出す。他の誰でもない自分ならではの提案。提案に印象的なネーミングをしたり，概念図を作ったりして，オリジナリティを強調する。

4. Expected Results

|  |
| --- |
| ・  ・  ・  ・ |

★上記の解決策を採用することで，2で示した問題がどのように解決され，それ以上にどのようなメリットが生じるのかをはっきり具体的に示す。必要に応じて数字なども利用。また，解決策の導入にコストが必要となる場合は，解決策導入にかかるコストとそれによって得られるコストを比較し，提案された解決策の導入が合理的であることを実証。

5. Summary

|  |
| --- |
| ・  ・  ・  ・ |

★《～という問題がある。～という私の提案する解決策を導入することで，～といった効果が期待できる。ゆえに、この解決策を導入すべきだ》ということを短く論理的にまとめる。その上で，最後に名言の引用や，心に残るキーフレーズなどを用いて，再度，自己の提案を採用してくれるよう主張する。最後の言葉は平易に，短く畳みかけるように。